

研究所報告

加山 久夫

本年4月から、島山保男主任に代わり、在外研究から帰国された斉藤栄一所員を新たに主任としてお迎えしました。このほか小田島太郎、水落健治両所員が研究休暇から戻られましたので、研究所の活動のさらなる充実のためにご活躍を期待しています。

マリンス、ヤング両所員を中心として、日本、韓国、米国、台湾

の研究者によって1990年から進められてきました共同研究 “Christianity in East Asia” は昨年度で終了し、その成果が今年末ないし来年早々にはアメリカの出版社から公刊される予定です。これに代わり、本年度より新たに、久世了所員を責任者として共同研究「ヘボン研究」が始まりました。明治学院内外で、高谷道男先生をはじめ、これまでヘボン研究に携わってきた方々は少なくありませんが、当の明治学院で共同研究プロジェクトとしてヘボンを研究する企画はこれまでなかったのではないかと思います。遅きに失した感がありますが、これまでのさまざまな成果を踏まえ、近代日本の形成のために大きい足跡を残したヘボン博士（夫妻）、殊に「医師としてのヘボン」を新たな視点から掘り起し、そこから将来への新たな光を与えられたいと願い、期待しています。

キリスト教研究所は1年後には、現在工事中の新本館北ウィング9階に移転することになります。この実現のためにご尽力下さった方々に心から感謝申し上げます。目下レイアウトを検討中ですが、新たな永住の地を与えられて、研究所の活動そのもののレイアウトも創意工夫され、ますます学内外に寄与できますよう願っています。

（かやま ひさお

所長、一般教育部教授）